川湯温泉デザイン会議

開催日時：2025 年 2 月 25 日（火）13：30～
開催場所：ふるさと館

［1）景観ガイドラインについて/検討経過］

〈①自動販売機について/地元事業者ヒアリングを受けて(ガイドライン P23)〉

・明るさ：「照度の抑制や、人感センサー、タイマー制御により」照明装置の明るさや時間は必要最小限とし～～の「　」を追記。

・設置場所：現状の検討案通り、「セットバック部分への設置不可」とする。

→公共空間から見えない場合需要が見込めない事から、飲料メーカーが設置希望する事が無くなる。

→今後、自販機によるお土産販売など、飲料以外の販売物が出て来た際にも制限がかかってしまうため。

【2/13 検討会議及び 2/19 調整会議での意見】

設置場所よりも明るさが問題。煌々としないようにすべき。

⇨照度を抑えられれば問題はない。

機器の制限で明るさを 50%程度に抑制できれば良いのではないか。

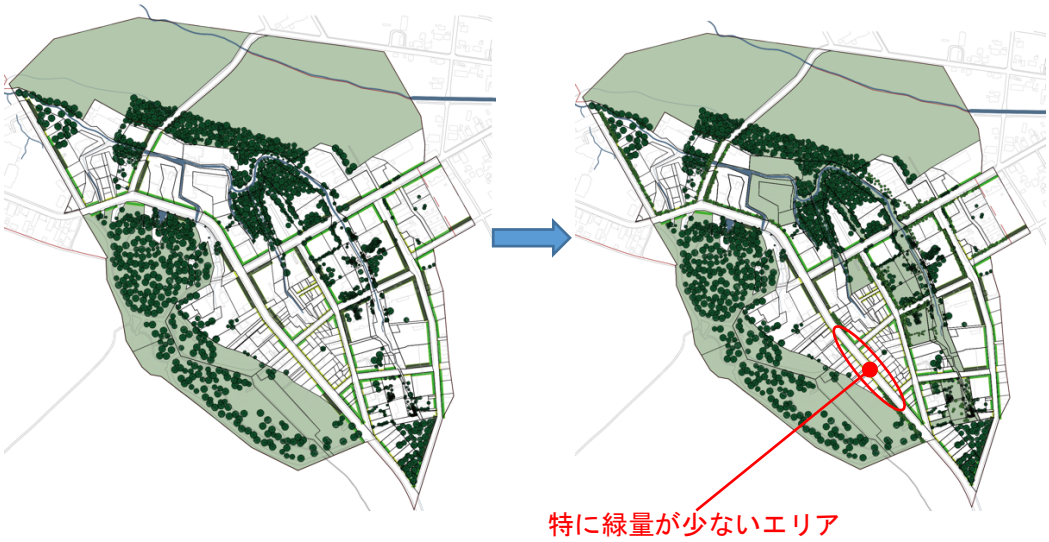
〈②セットバック及び植樹について P12~13〉

［資料］緑化分布図、セットバック・緑化規定の代替案

〈民地のセットバック・植樹について〉

緑量シミュレーション

左)現状の緑量　⇨　右)2030 年ごろ ※温泉川沿い散策路等の被地緑化も含める

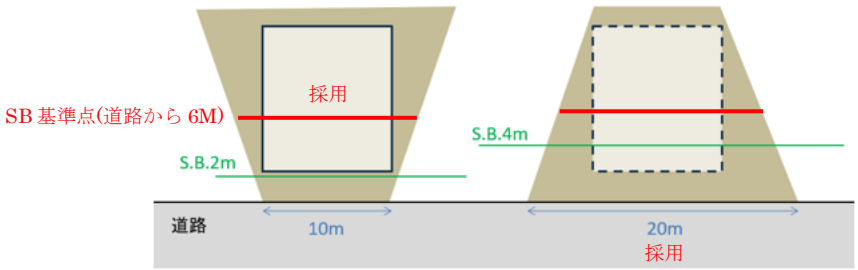


セットバック基準

［資料］セットバック・緑化規定の代替案

・セットバックへの理解を求めるにあたり、より敷地間口ごとのセットバックに公平感が出るよう、環境省よりご提案頂く。

①敷地間口幅によるセットバックについて、下図のような不公平感を無くすため、接道面または接道面から 6m の敷地幅が広い方をセットバック基準として採用する。



②セットバック幅を現案の 3 段階（2,4,6m）から、間口幅に細かく対応した案へと変更。

A 案：セットバックを 3 段階→間口 5m 刻みに設定

B 案：間口幅/10 に設定(最低 2m、最高 6m は変更なし)

→いずれかの案を検討

【セットバック＋植樹の結論として】

・緑化分布図の通り、公共用地での植樹では温泉川沿いの緑の動線整備は進むが、道道沿いの緑化が進まず「森の温泉街」が感じられないため、対象住民への説明を行い「セットバック＋植樹」の理解を進める。

・環境省からご提案のあったセットバック基準を景観ガイドラインへ反映。
（調整会議では B 案を推奨）

・景観ガイドラインへ住民が参加したくなるパースの掲載を行う。(検討会議での意見)

・3/24 マスタープラン推進協議会に向けた、景観ガイドライン(完全版・概要版)の作成を行う

・弟子屈町としても、審査のしやすさを考慮して B 案で良い。→B 案で決定。

・セットバック敷地に植樹がされない区画が出ないよう、間口 7.5m 以下(SB 面積 15 ㎡以下)も植樹するのか検討。

→いままで議論して来たことをベースにしながら、3/24 推進会議までに検討する。

〈③公共空間を使った緑化空間形成について〉

【2/13 検討会議での意見】

・民地の緑化は時間がかかるため道路の緑化も同時に考えるべきではないか。

→道路を利用した緑化において目指すべき理想型をオンサイトにて作成。

・除雪時の懸念点等も把握

→北海道との協議をどのタイミングで行うのか検討。

→道路再編に向けた基本計画について、業務開始時期の確認(別紙：スケジュール)

【2/19 調整会議での意見】

・北海道との協議について：

北海道社会資本整備推進協議会にて協議会への参加、無電柱化を要望しており、

今後は植樹を要望。ただし、実施までは相当に時間がかかる予定。

・町道歩道への植樹は除雪の際に除雪車がぶつかる危険性がある。
→並木にするのではなく場所をまとめて植える方が良い。
・枝切り等の管理費や、町民が参加しやすい組織づくりを行う。
→樹木管理は費用、労力かかる。植えるだけではなく、どのように管理していくか議論をしっかりしていく。

［２)川湯テラス基本計画］

〈①地元事業者ヒアリングについて〉

［資料］事業者ヒアリング(川湯テラスについて)

○川湯テラス全体について(抜粋)

・エリアが広いので滞留スペースや足湯を点在させてはどうか。
・木製遊具等、子供が遊べる場所が欲しい。
・橋や欄干を特徴的なものにしてはどうか。
・橘屋の駐車場は忍冬の駐車場と並ぶと空地が目立つのが懸念される。
・冬でも温泉暖房等で暖かく過ごせるフリースペースが欲しい。
・冬期に霧氷が見栄えするフォトスポットが欲しい。
・岩盤テラスを検討する際に目指す方向性としてあった「湯畑」のように集客の目玉となる場所を設けるべきではないか。
・温泉熱活用をアピールするために足湯等で上水と源泉の熱交換を行えないか。

・設計進める上でもゾーン名を付けた方がよい。
→オンサイトにて実施。

○芝生広場・橘屋の利用について(抜粋)

・ランチ提供店舗が欲しい。
・お土産店が不足しており誘致してはどうか。
・温泉街内の店舗より移転の希望あり。
→必要な機能を検討し合致する場合は地元企業を優先的に誘致する。
・公共トイレが欲しい。
・インフォメーションコーナーが欲しい。
→無人での設置を検討。
・橘屋の屋根から中通りに雪が落ちて危険。

解体範囲（ブルーの線）：越境範囲を解体、適正規模へ縮小

解体理由ほか

・温泉川沿いのブルーは元々お風呂⇨越境している部分なので解体

・東側 2 階建て⇨規模が大きく温泉川と一体で利用となると難しい。
維持費等を考えても規模が合わないため。

・ピンクの SB ライン⇨既存建物景観ガイドラインの対象にはならないが、中通り沿いは景観に配慮し解体。中通り側に雪が落ちるという意見もあったので解体対象。

〈②川湯テラス基本計画・エリア動線計画について〉

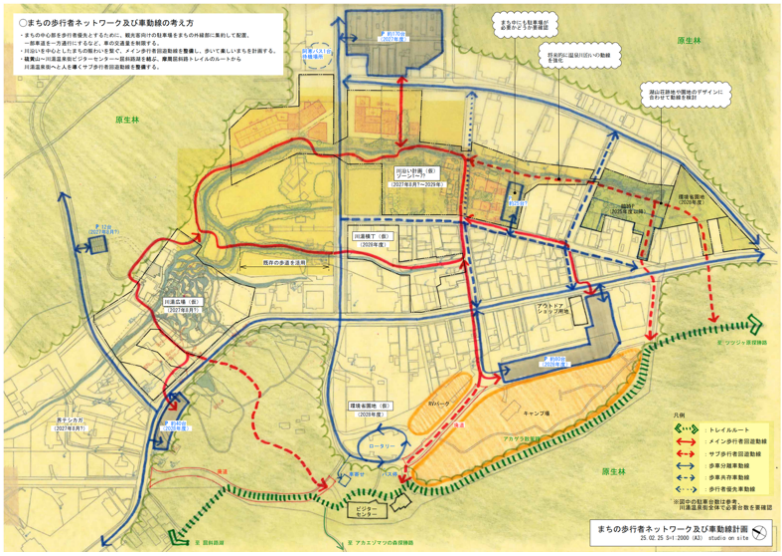
［資料］歩行者ネットワーク及び車動線計画、河川沿い計画ゾーン分け図、川沿い計画検討案、
河川沿い計画_全体配置案

【議論の目的】

・河川沿い計画の方向性は概ね合意。

→3/24 MP 推進協議会での基本計画承認に向けた議論の深掘りを行う。

・動線計画にて駐車場位置の検討。特に旧橘屋敷地内への必要性について。

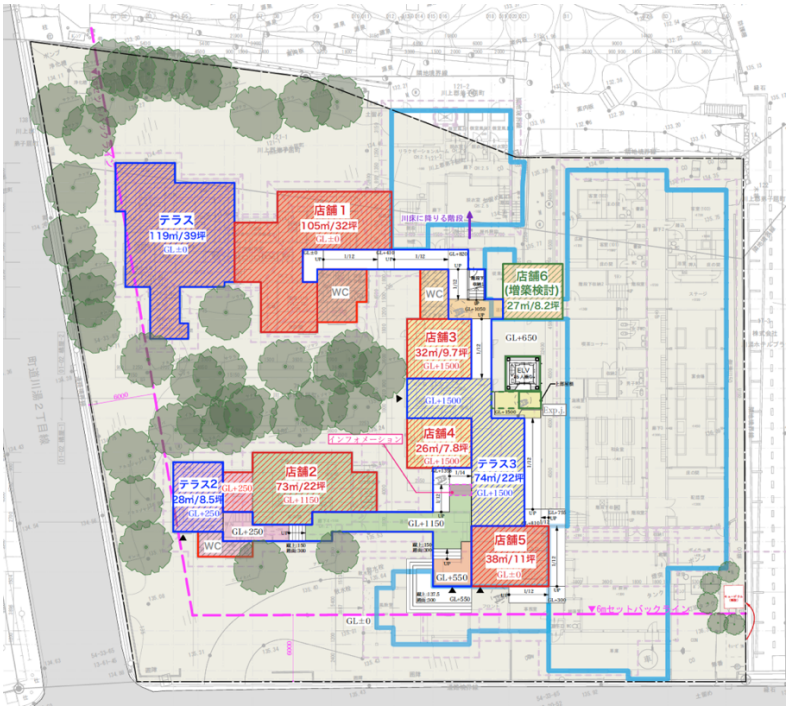


・メイン動線の位置付け：楽しい回遊動線、駐車場から各目的地へとつなぐ動線

・目的地の位置付け：川湯広場、橋屋、ビジターセンター、既存ホテルとの接続
・園地駐車場 40 台：林の中で停められるのか？　広場隣地の公募にも関わるため早く決めたい。
・エリア⑦(森のアクティビティ入口)も将来的な開発エリア(林間スケート受付等)として想定して良いのでは。
・橋屋敷地に駐車場はあっても良い（住民用、送迎用バスの臨時Pとして）
→駐車場をフェーズ分けし検討する。フェーズ①はマツモ荘跡、橋屋跡が良いのでは。
・目的地は芝生広場や商業施設群ではなく、あくまでも温泉川や岩盤テラスである。
・橋の撤去は町民同意が必要⇨お金をかけてまで撤去は不要（現地点）

〈③橋屋リノベーション・解体計画について〉

［資料］旧橋屋改修検討図



【2/19 調整会議での意見】
・施設の定休日は取らないようにしてほしい→店舗ごとに交代制で休むのは良いのでは。
・トイレ清掃は人材がいないため、店舗が当番制で行うのが良いのでは無いか。
・インフォメーションは人員確保の観点で有人対応は現実的では無く、インフォメーションコーナーとしてホテルや飲食店へ誘導し、ホテル・飲食店がコンシェルジュになるのが良いのではないか。
・駐車場位置の検討。
・河川沿いの賑わい創出のため店舗⑥を川沿いにずらしても良いのではないか。
・物販はストックを含めて面積が必要になるのでは？
・利用を促進するための商品として：団体バス＋チケット配布は可能

・店舗 3、4、 5、テラス 3 を一体とし、シェアスペースを兼ねた方がいい。
→一部をカフェスペース、地域のお土産（コンセプトショップ的なもの）など。
→トイレ掃除：そのシェアスペースの方に管理をしてもらうとよいのでは（指定管理？）
・イベントや会議、集まりは 2 階にする。将来的な誘致スペースとしてはとっておく

→例）アッパーな飲食店など。それまでは貸し会議室程度としておく。

・川湯横丁の機能は先行して橘屋になっている。横丁の位置付けの整理が必要。

・岩盤テラスのところに足湯というのは分かりやすいが、足湯が多くなりすぎではないか。
→役割分担＝機能の住み分けが必要。(バリアフリーの有無等、、)

・(弟子屈町)観光案内所はトレイルセンターもあるためビジターセンターをメインとし、
橘屋は無人で良いのではないか。

〈今後のスケジュール〉

・川湯テラス全体：

・2/25(火)全体会議にて中間確認

・3/19(木)全体会議にて最終確認

・3/24(月)マスタープラン推進業議会での説明(景観ガイドライン・川湯テラス・川湯広場)

・旧橘屋：

・2～3 月に導入機能の方向性決定

・4 月までに導入機能・建物調査に基づいた解体範囲を設定

・7 月頃に部分解体